

渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会ニュースレター

第5回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会を開催しました

平成24年11月9日（金）10：00～12：00に、栃木県栃木市の藤岡遊水地会館において「第5回渡良瀬遊水地湿地・保全再生モニタリング委員会」を開催しました。

◆モニタリング委員会の概要

今回は委員7人全員にご出席いただきました。

【委員名簿】（五十音順・敬称略）

青木 章彦	作新学院大学女子短期大学部 教授
一色 安義	渡良瀬遊水地野鳥観察会 会長
大川 秀雄	とちぎ昆虫愛好会 幹事
大和田 真澄	栃木県植物研究会 会員
清水 義彦	群馬大学大学院 教授
高松 健比古	渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 代表世話人
守田 優	芝浦工業大学 教授

はじめに、事務局より第4回委員会での指摘事項とそれらへの対応を報告し、委員の確認を頂きました。次いで、本年度のモニタリングの結果を報告し、調査結果の評価、考察時の留意点、今後のモニタリングのあり方などについてご意見やご助言を頂きました。また、事務局より今後の掘削に関する検討の進め方を説明し、植物重要種に配慮した掘削計画の進め方や曝気ヤードの拡幅計画案について意見がだされました。

【委員会での様子】



◆委員会での報告内容と主な意見

【平成 24 年度モニタリングに関する調査結果について】

現在、試験掘削地を中心に環境調査を実施しており、過去の調査結果を踏まえながら、「水位・水質」、「土壌水分量」、「植物」などに関する平成 24 年度の調査結果（中間）を事務局より報告しました。ポイントは以下の通りです。

- 掘削後 2 年目を迎えた試験掘削地（環境学習フィールド）では、多様な湿地植生が形成されていることが確認された。今後もモニタリングを継続する予定である。
- 試験掘削地の周辺の地下水位は、例年と同様に掘削前と比較すると低下する傾向が見られた。少雨のために、本年度の 8 月以降は試験掘削地周辺以外においても地下水の低下が見られた。掘削を開始してからの経過年数はまだ 3 年であるため、引き続き今後の推移をモニタリングする。

○主な意見

植物に関する調査や保全措置については詳細に行われていると考えられる。今後は動物調査の進め方が課題と考えられる。

【掘削に関する検討について】

試験掘削の進捗状況とともに、今後の工事予定や掘削計画の進め方、曝気ヤードの拡張案について、事務局より説明しました。ポイントは以下の通りです。

- 今後の工事予定では、平成 25 年度の掘削計画案を説明した。
- 掘削計画の進め方に関しては、東京大学の考案した手法に基づき、植物重要種を保全するために掘削回避エリアを設定することを説明した。
- 曝気ヤードについては、今後の掘削に必要な面積を拡張することを報告した。主に植物重要種に対して配慮した配置計画とすることを説明した。

○主な意見

今後の掘削地検討に際して、ハクチョウなどの大型の鳥類も利用できるように広い池の創出も考慮してほしい。

モニタリング結果や今後の掘削に関して、さまざまなご意見・助言をいただきました。今後のモニタリングや掘削に関する検討に対して、頂いたご意見やご助言を反映していきます。